

事後評価調書

I 事業概要																																																								
事業名	農業農村整備事業（緊急農地防災事業）																																																							
地区名	日下部川地区																																																							
事業箇所	稲沢市																																																							
事業のあらまし	<p>本地区は、稲沢市の東部に位置し、東・南・西側の三方を東海道本線、東海道新幹線及び名鉄名古屋本線に囲まれた流域面積 333ha の平坦な水田地帯である。</p> <p>地区の排水は、幹線排水路である日下部川により集水し、二級河川福田川へ自然流下していた。しかし、本地区は、JR稲沢駅に近接しているため都市化の進展が著しく、宅地開発に伴う降雨流出量の増加や地盤沈下による排水路の機能低下も相まって、地区の排水状況は著しく悪化し、豪雨時には度々農地や農業用施設、公共施設等に湛水被害が生じていた。</p> <p>このため、幹線排水路である日下部川を改修整備することにより、湛水被害を防止し農業経営と民生の安定を図ることを目的に、平成9年度から緊急農地防災事業を実施し、平成20年度に完了した。</p>																																																							
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>幹線排水路を整備し、農地や農業用施設、公共施設等の湛水被害を防止する。 （基準雨量 336.0mm/3日、1/20年確率雨量）</p>																																																							
事業費	事業費		内訳																																																					
	17億円	■工事費 14億円、 ■用補費 1億円、 ■その他 2億円																																																						
事業期間	採択年度	平成9年度	着工年度	平成9年度	完成年度	平成20年度																																																		
事業内容	排水路 L=1,834m																																																							
II 評価																																																								
①事業目標の達成状況	1) 主要目標の達成状況	<p>【達成状況】</p> <p>事業完了からの5年間では、最大 272.0mm/3日の雨量を平成20年8月28日～30日に観測したが、この間、一時的な湛水は生じたものの、農地や農業用施設、公共施設等の被害は発生していない。</p> <p>降雨実績 (気象庁名古屋地方気象台 一宮観測所 気象データ)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>5か年平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間降水量</td> <td>1732.5mm</td> <td>1781.0mm</td> <td>2149.5mm</td> <td>1710.0mm</td> <td>1739.5mm</td> <td>1822.5mm</td> </tr> <tr> <td>最大日降水量</td> <td>173.0mm</td> <td>78.5mm</td> <td>94.0mm</td> <td>97.5mm</td> <td>129.5mm</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>最大1時間降水量</td> <td>120.0mm</td> <td>55.0mm</td> <td>39.0mm</td> <td>62.0mm</td> <td>69.5mm</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>降雨日</td> <td>105日</td> <td>106日</td> <td>114日</td> <td>97日</td> <td>103日</td> <td>105日</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成20年8月28日～30日にかけての「平成20年8月末豪雨」では総降水量 272.0mm(3日間)、最大1時間降水量 120.0mmを記録した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H20「8月末豪雨」</th> <th>8月28日</th> <th>8月29日</th> <th>8月30日</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日降水量</td> <td>173.0mm</td> <td>67.0mm</td> <td>32.0mm</td> <td>272.0mm</td> </tr> <tr> <td>時間最大降水量</td> <td>120.0mm</td> <td>43.0mm</td> <td>7.0mm</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【達成状況に対する評価】</p> <p>計画(336.0mm/3日)未満の雨量に対する実績ではあるが、排水路を改修整備した効果が発現し、湛水被害が防止されていることから、本事業は地域の農業経営と民生の安定に寄与していると評価できる。</p>					区分	H20	H21	H22	H23	H24	5か年平均	年間降水量	1732.5mm	1781.0mm	2149.5mm	1710.0mm	1739.5mm	1822.5mm	最大日降水量	173.0mm	78.5mm	94.0mm	97.5mm	129.5mm	-	最大1時間降水量	120.0mm	55.0mm	39.0mm	62.0mm	69.5mm	-	降雨日	105日	106日	114日	97日	103日	105日	H20「8月末豪雨」	8月28日	8月29日	8月30日	計	日降水量	173.0mm	67.0mm	32.0mm	272.0mm	時間最大降水量	120.0mm	43.0mm	7.0mm	
	区分	H20	H21	H22	H23	H24	5か年平均																																																	
年間降水量	1732.5mm	1781.0mm	2149.5mm	1710.0mm	1739.5mm	1822.5mm																																																		
最大日降水量	173.0mm	78.5mm	94.0mm	97.5mm	129.5mm	-																																																		
最大1時間降水量	120.0mm	55.0mm	39.0mm	62.0mm	69.5mm	-																																																		
降雨日	105日	106日	114日	97日	103日	105日																																																		
H20「8月末豪雨」	8月28日	8月29日	8月30日	計																																																				
日降水量	173.0mm	67.0mm	32.0mm	272.0mm																																																				
時間最大降水量	120.0mm	43.0mm	7.0mm																																																					
2) 副次目標の達成状況	該当なし。																																																							

【費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化】

		事業採択時	実績	備考
事業期間		H. 9～H. 12 (4年間)	H. 9～H. 20 (12年間)	
事業費 (億円)	工事費	7	14	
	用地補償費	0	1	
	その他	1	2	
	合計	8	17	
効果の 算定要因	・災害防止効果			
	被害面積	220.0 ha	220.0 ha	
	農地面積	120.0 ha	109.0 ha	
	作付面積（水田）	81.0 ha	70.0 ha	
	作付面積（畑）	39.0 ha	39.0 ha	
	宅地等面積	100.0 ha	111.0 ha	
	住宅	550 戸	611 戸	
	工場	18 棟	20 棟	

※「事業採択時」欄の事業費は当初計画、効果の算定要因は最終計画の値。

【事業期間に対する評価】

法人事業税超過課税を財源とした事業であるため、税収の落ち込みにより事業費予算が削減されたこと、住宅団地内を施工する区間において、仮設工事費が増大したこと、及び同団地内の工事において、住民の生活道路を確保するため施工区間を分割する必要があったことから、事業工期を延長した。

【事業費に対する評価】

排水路の改修にあたり、住宅団地内の施工において、仮設工法等を一部見直した（仮設土留矢板の追加等）ことにより工事費等が大幅に増大したが、これは、水路改修を円滑に進めるために行ったもので、事業効果発現のために必要であった。

【効果の算定要因に対する評価】

本地区は水稻、露地野菜を主体とした都市近郊の農業地域である。最終の事業計画時と比較して、本地区の農地面積は約9%減少しており、農業効果については減少が見込まれる。一方で、宅地等の面積は約11%増加しており、農業以外の面で本事業の重要性は増していると判断できる。排水路の整備により湛水被害が解消され、効果算定の要因である降雨による湛水被害防止に対しては、計画どおり効果発現していると評価できる。

本事業は、既設排水路を改修整備したものであり、工事施工にあたっては低振動、低騒音の作業機械を使用するなど、周辺環境に配慮したため、自然環境や生活環境へのマイナスの影響はない。

対応方針（案）	
今後の事後評価の必要性	主要目標が概ね計画通り達成されているため、今後の事後評価は不要である。
改善措置の必要性	主要目標が概ね計画通り達成されているため、改善措置は不要である。
同種事業に反映すべき事項	本地区では、住宅団地内の工事施工に伴い、事業費及び工期の見直しを行った。 今後は、事業費や事業工期の適正化を図るため、工事の施工計画について、仮設計画等も含め、事業計画段階から十分に検討する必要がある 特に、住宅密集地等において行う工事では、生活道路を確保するための施工上の制約なども考慮し、適正な事業工期を設定する必要がある。
IV 事業評価監視委員会の意見	
日下部川地区の対応方針(案)〔改善措置等の必要なし〕を了承する。	
V 対応方針	
改善措置等の必要なし	